

助成活動実績報告書

企画名	源流に泊まって調べよう！ふるさと再発見！旭川まるごと探検隊 ～新庄川～中高生キャンプ
団体名	中学高校環境研究会

①活動の目的について

岡山県の中学校、高等学校の自然科学系サークルを応援し、水生昆虫や魚類、植物、野鳥などについて専門家に指導を仰ぎながら、身近な旭川の自然の観察・研究の楽しみを伝える。岡山理科大学の学生にスタッフとして参入してもらい、学生が行っている研究に関する知識を深めるとともに、実施体験を通して次世代の指導者の育成につなげていく。宿舎や食事、2日目の奉仕活動などについて地元で協力を依頼し、地域の活性化につなげる。

②内容について

開催日：平成 26 年 8 月 11 日（月）～12 日（火）

参加校：3 校（芳泉中学校、関西高校、岡山理科大学附属高校）

参加者：39 名（中学生 8 名、高校生 9 名、引率教員 4 名、スタッフ 18 名）

会 場：新庄村毛無山周辺、真庭市龍宮岩周辺、宿舎：新庄村ふれあいセンター

開催地は、鏡野町富村白賀溪谷、新庄村、蒜山・津黒の各源流域 3ヶ所を 1 年毎に巡っている。今回の新庄村は 2011 年度に一度開催しており、2 度目の開催である。

【①朝鍋鷲ヶ山登山】1 日目の朝は生憎の雨だったが、ガマズミ、カワラナデシコなど山地などに生育する植物を観察した。講師：岡山理科大学 藤木利之氏

【②水生昆虫採集】朝鍋鷲ヶ山下山後、野土路川上流の、旭川源流の碑が建っている場所の側の小川で水生昆虫の採集を行った。旭川源流の冷たく澄んだ川の中で、参加者は生き生きとして活動をしていた。現地で水生昆虫や魚類の解説も行った。講師：岡山理科大学 齋藤達昭氏

【③水生昆虫同定、プレゼン作り】持ち帰った水生昆虫を、岡山理科大学中村研究室の学生に手伝ってもらいながら同定を行った。結果はスライドにまとめ、夜の発表に備えた。写真を撮ってスライドに載せる作業は難しかったが、熱心に取り組んでいた。

【④プレゼン発表】岡山理科大学学生が行っている研究発表「土壌昆虫について」、「オオシロカゲロウについて」、「富のオオサンショウウオについて」を参加者に対して行った。その後、参加者による水生昆虫同定の結果、中高生が普段クラブで行っている活動について発表を行った。

【⑤水生昆虫ライトトラップ】夜間、光に集まってくる水生昆虫の観察を行った。

【⑥早朝野鳥観察】2 日目早朝、宿舎周辺の野鳥観察を行った。講師：岡山野鳥の会 大塚利昭氏

【⑦毛無山セラピーロード林道整備】中学生と高校生は毛無山セラピーロードの林道整備と薪割り体験、大学生は木製シーソーの製作体験を行った。指導は地元新庄村の国六事業所の方をお願いをした。参加者は、草刈り機やチェーンソーなど普段使わない道具に戸惑いながらも、楽しんで作業していた。講師：新庄村セラピー協議会 黒田真路氏

【⑧龍宮岩見学】真庭市神代にある龍宮岩と鬼の穴の見学を行った。石灰岩が作る独特な景観やフズリナなどの化石、鍾乳洞の成り立ちについて熱心に解説を聞いていた。講師：岡山理科大学 山口一裕氏

③この活動によって達成された成果

中学校・高等学校の自然科学系サークルの生徒に対して、身近な岡山の自然の魅力について広めることができたものと考えている。アンケートの結果ではいずれの内容も 100 点中 80 点を超えており、高評価を得ている。水生昆虫の同定、プレゼンづくりまでの流れは、参加者にはやや難易度の高いものであったが、その分やりがいを感じてくれたようである。また、約 56%の参加者が以前旭川源流大学に参加したことがあると解答している。中学校在学中の 3 年間、毎年参加してくれている生徒もいるなど、リピーターも多い。スタッフに関しては、水生昆虫の指導において岡山理科大学の卒業生にボランティアで手伝いに来てくれる方も出てきており、指導者の育成にも成果が出てきているものと考えられる。下見から岡山理科大学の学生に参加してもらうことで、学生の卒業研究の場にもなった。今回は、新庄村では 2 度目の開催であり、地元の受け入れ態勢が心配されたが、宿舎を特別にふれあいセンターの大広間を貸していただいたことや、地元林業企業が積極的に指導して下さるなど大変協力的で、良好な関係を構築できている。

<今回の観察で確認できた生物のリスト>

◆植物 28 種：ウツボグサウド、オミナエシ、ガマズミ、カワラナデシコ、キキョウ、キツネノボタン、コバノフユイチゴ、シモツケソウ、シュロソウ、タニウツギ、ツルアジサイ、トウギボウシ、ナナカマド、ネジリバナ、ハイヌガヤ、ヒトツバヨモギ、フジバカマ、ホソバソバナ、マルバダテブキ、マルバハギ、ミズヒキ、ミヤマシシウド、ヤマアジサイ、ヤマジノホトトギス、ヤマゼリ、ヨツバヒヨドリ、リョウブ、ワレモコウ、

◆水生昆虫・その他水生生物 35+5 種：キイロサナエ、ムカシトンボ、ヒゲナガカワトビケラ、フタスジキソトビケラ、ヨツメトビケラ、タニガワトビケラ、シメトビケラ、ナガレトビケラ、フタスジモンカゲロウ、キフネタニガワカゲロウ、エルモンヒラタカゲロウ、ユミモンヒラタカゲロウ、オオマダラカゲロウ、コオノマダラカゲロウ、クロタニガワカゲロウ、キベリオスエダカワゲラ、キベリオスエダカワゲラ、オオクラカケカワゲラ、クロヒゲカミムラカワゲラ、トウゴウカワゲラ、ヤマトアミメカワゲラ、ヘビトンボ、ガガンボ類、サナエトンボ、キソトビケラ類、オオハラツツトビケラ、ハナセマルツツトビケラ、ニンギョウトビケラ、ヘビトンボ、フタスジキソトビケラ、オオカワツツトビケラ、オオヤマカワゲラ類、モンカワゲラ類、ナガカワゲラ類、フタツメカワゲラ類、ヨコエビ、サワガニ、ヒダサンショウウオ、シーボルトミミズ、カジカ

◆野鳥 13 種（鳴き声での分類）：アオサギ、カルガモ、ツバメ、ヒヨドリ、カワラヒワ、イカル、ホオドリ、スズメ、ハシボソガラス、キジバト、セグロセキレイ、モズ、ウグイス

④今後の計画・展望について

富、新庄、津黒の源流域 3 ヶ所を軸として、継続して活動を続けていく。調査活動を充実させ、旭川源流域の水生生物の実態、地史などを明らかにし、成果を地元へお渡しするとともに、岡山市民へも広め、自然観察の面白さを伝えていきたい。また、モニタリング調査を継続して行っている中で、県内の河川等の開発により生物の多様性が失われるのを止められない現状がある。今後は、中高生や専門家の調査を起点として、市民調査やシンポジウムの開催など市民が後世にどのような自然を残していきたいかを考えられるきっかけづくりをしていきたい。

⑤写真等参考資料添付

